



《学園校訓》新・究・律・愛
《経営ビジョン》みらいにつながる学びをひらく
《学園教育目標》みらいをつくる ～切り拓き、リードする～



◆ 学びたくなるとき ◆

昨日（9月1日）の始業式では、「皆さんが学びたくなるのは、どんなとき？」と題して話をしました。私たちが学びたいと思うのは、①～⑦のようなときだそうです。

このように思うときを、どんどん増やして、勉強を楽しいものにしてほしいと願っています。

- ①自分に必要だと思うとき ②みんなから認められたとき
- ③わからなかったり悩んだりしているとき ④夢中になっておもしろいとき
- ⑤やり通したとき ⑥がんばったとき ⑦集中して頭に入ったとき



ALTのマリエラ先生の帰国に伴い、新しいALTの先生がお二人着任されました。男性のジェイソンさんは、アメリカから日本にいられて1年半ほど。女性のチャリリンさんは、フィリピンから日本にいられて半年ほどとのことです。どちらの先生も、ある程度日本語をお話しになります。子どもたちと早く打ち解けていただいて、子どもたちの語学力を高めてもらいたいと思います。

他に、メディアセンターには、八島先生の後任として、世戸綾先生が着任されました。また、末武光美先生も1学期途中から火・木・金にメディアセンターに来ていただいています。

そして、学習生活の支援をしていただく、堀川晃子先生が復帰されました。

◆ 原爆瓦（げんばくがわら） ◆

原爆瓦（げんばくがわら）とは、1945年8月6日の広島への原子爆弾投下により、強烈な熱線（放射熱：約1,200度～1,250度）を受けて表面が溶け、泡立ってガラス質に変化した屋根瓦のことです。被爆の惨禍や、当時の熱線の凄まじさを今に伝える貴重な歴史的遺物・資料として平和記念資料館などに保管されています。



私（丹野）が有浦中に勤務していた当時、修学旅行は広島でした。宿では、夕食後1時間程度、語り部の被爆体験者の方から講話をしていただいていたいました。写真の原爆瓦は、語り部の方から頂いたものを私が保管していたものです。実物は、みらいホールに展示しています。なお、その語り部の方は、「原爆一号」と呼ばれた吉川清さんの奥様でした。

◆ 給食が始まりました ◆

昨日から、給食が始まっています。給食初日は、子どもたちが大好きなカレーライス、そして玄海町産の特産物「ハウスみかん」がデザートでした。佐賀県はハウスみかん生産量日本一だとか。2学期も、給食を楽しく・美味しく食べて、よりよい学校生活を送ってほしいものです。



■先月、唐津市唯一の映画館で、劇団東京乾電池の朗読劇「父と暮らせば」を鑑賞した■原爆投下後の広島を舞台とした、井上ひさしの代表作■最後の舞台挨拶で、柄本明さんが「原子爆弾も、劇のエンドロールの素敵な曲も、人間が作ったもの。私は、人間を嫌いにはなりたくない。」という言葉が心に残った。（イタル）